

日蓮大聖人御書全集

ごにんつちろうごしよ

五人土籠御書

新版  
1638  
〜  
1639

ごにんつちろうごしよ

# 五人土籠御書

ぶんえい ねん

文永 8 年 (71)

がつ にち

10 月 3 日

さい にちろう

50 歳 日朗はじめ門下 5 人

ごにんおんちゆう

五人御中 □

にちれん

日蓮

こんげつなのか 佐 渡 くに 罷

今月七日、さどの国へまかるなり。各々は法華経一部ず

おのおの ほけきよういちぶ

そうら わ み

つあそばして候えば、我が身ならびに父母・兄弟、存亡等

ふぼ きようだい そんぼうとう

えこう そうろう

に回向しましたし候らん。今夜のかんずるにつけて、い

こんや 寒

わ み こころ 苦 もう

よいよ我が身より心ぐるしさ申すばかりなし。ろうをいで

籠 出

たま みようねん 春

させ給いなば、明年のはる、かならずきたり給え。みみえ

必 来 たま 見見

まいらすべし。

殿

ひとり

奴

思

しようどののただ一人あるやつをつけよかしとおもう

こころ 無

ひとひとり

死

おのおのおん

心、心なしとおもう人一人もなければしぬまで各々御

恥

だいしんのあじやり

沙汰

はじなり。また大進阿闍梨は、これにさたすべきこと、か

各

おんみ

うえ

見果

たがたあり。またおのおのの御身の上をもみはてさせんが

料

留置

詳

もう

そうら

りように、とどめおくなり。くわしくは申し候わんずらん。

きようきようきんげん

恐々謹言。

じゆうがつみつか

十月三日

にちれん

かおう

日蓮

花押

ごにんおんちゆう

五人御中

せんあくてこ房ぼうをばつけさせ給たまえ。ふしらうめが一人ひとり

あらんずるが、ふびん不便に候そうらえば申もうす。